

令和元年度 公共事業事後評価調査

1. 事業説明シート

(区分) **国補** ・ 県単

事業名	治水事業 [基幹河川改修事業 (国補)]		事業箇所	笛吹市春日居町 (鍛冶屋橋～山沢橋)	地区名	平等川	事業主体	山梨県
(1) 事業着手年度	H16年度	(2) 事業期間	H16年度～H26年度		(3) 完了後経過年数	5年	(4) 総事業費	1,491百万円

(5) 事業着手時点の課題・背景

一級河川平等川は山梨市の矢坪に源を発し、西平等川などの支川を合流しながら旧春日居町を流れ、さらには旧石和町と甲府市の境を流下し笛吹川に合流する流路延長12.9km、流域面積33.2km²の一級河川である。

事業区間は、計画流量250m³/sに対し、現況の流下能力は132m³/sしかなく、昭和52年8月豪雨、昭和58年8月台風5・6号、平成3年9月台風18号、平成12年9月豪雨では河川の氾濫によって甚大な被害が発生していた。

(被害実績)

- 昭和52年8月17日～18日 (豪雨) 浸水農地面積116ha 浸水家屋137戸 (累計雨量227mm)
- 昭和58年8月16日～17日 (台風5・6号) 浸水面積4.5ha 床下浸水12戸 (累計雨量306mm)
- 平成3年9月19日 (台風18号) 浸水面積9ha 浸水家屋22戸 (累計雨量171mm)
- 平成12年9月12日 (豪雨) 床下浸水28戸 (累計雨量311mm)

(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果

(事前評価未実施)

主要目標
洪水被害の防止

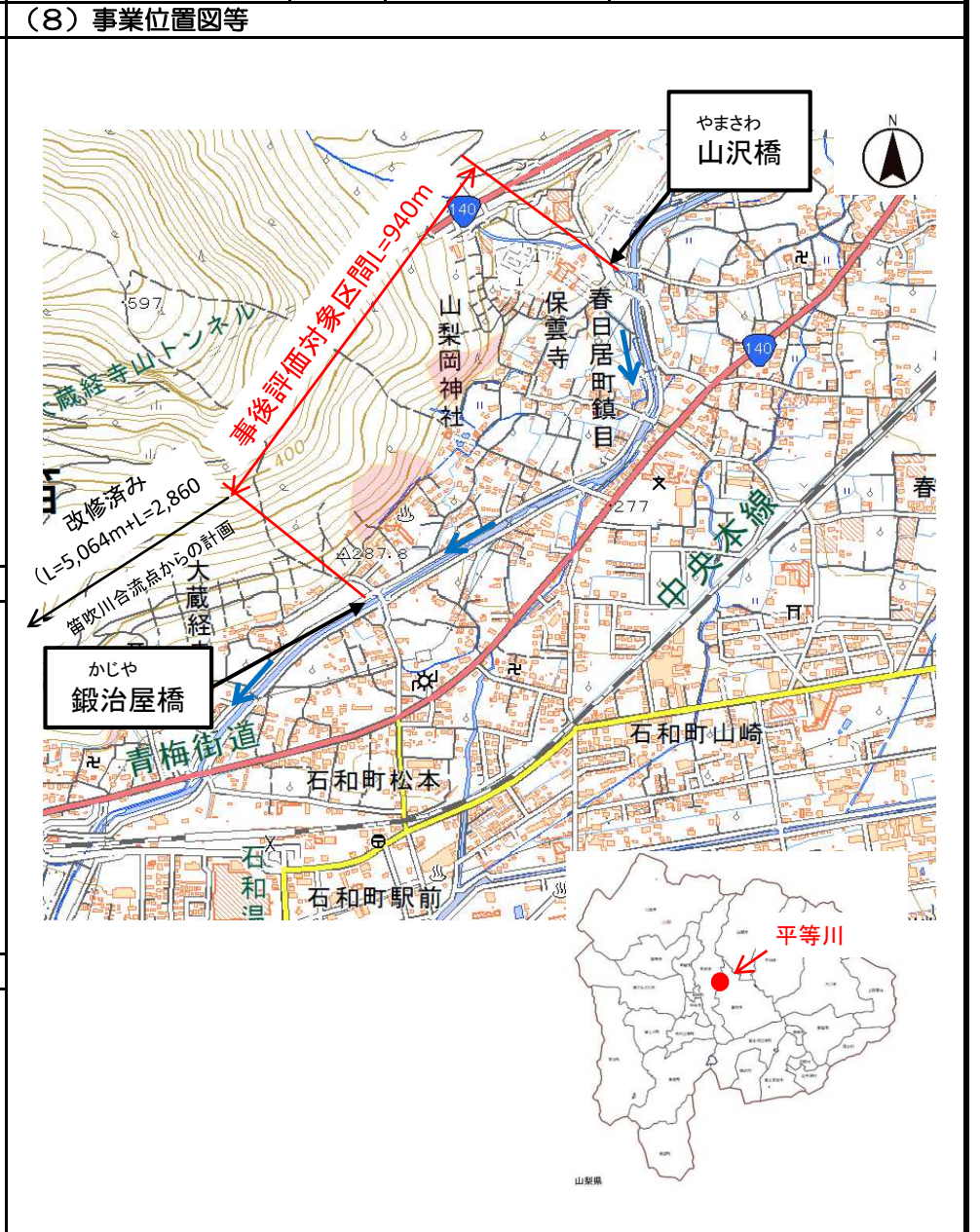
副次目標
なし

副次効果
なし

(7) 整備内容 (目標達成の方法)

流下能力の向上

- 改修延長 L=940m、護岸工L=1,880m
- 流下能力 132m³/s → 250m³/s
- 治水安全度 1/3 → 1/30



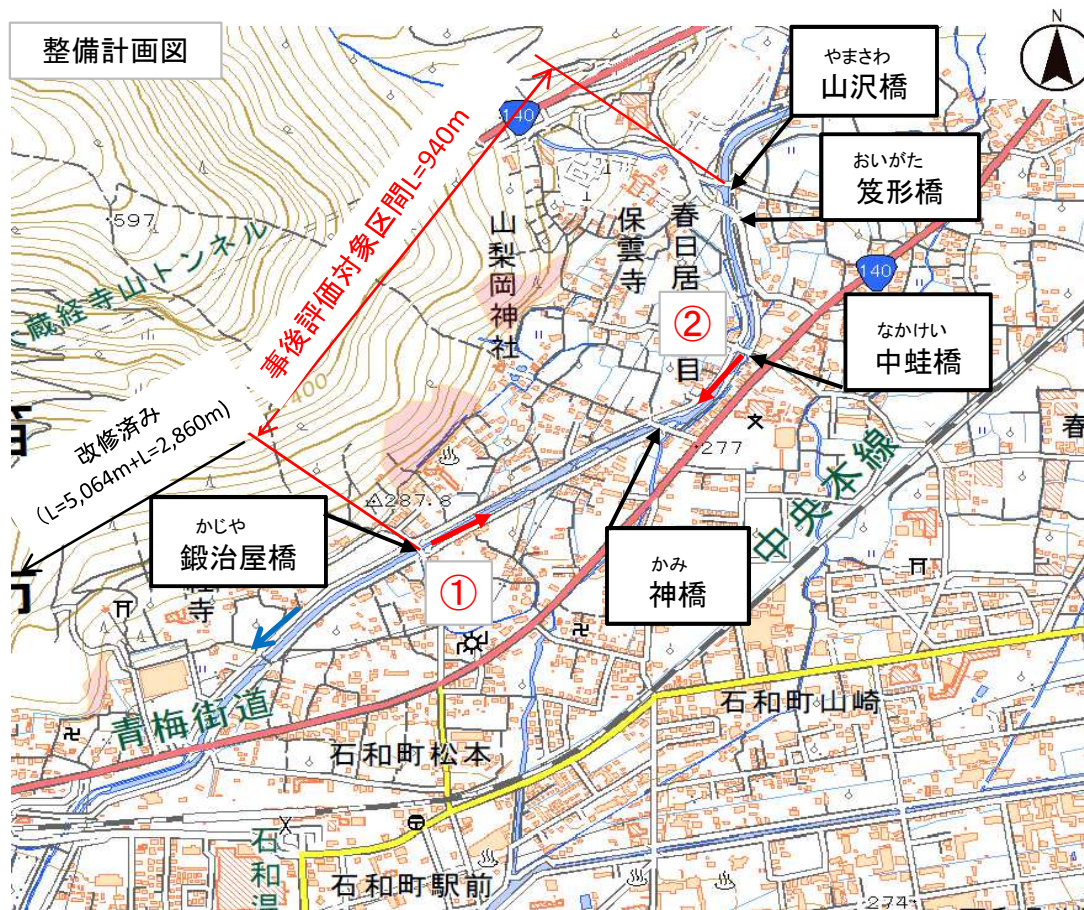
2. 評価シート (1)

(1) 事業貢献度 〈 良・不良 〉	(2) 費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 〈 有・無 〉																																																								
<p>(理由) 平成26年10月の台風18号による24時間最大雨量195.0mm、最大流量150m³/s (1/4) の降雨があったが、流下能力が向上したことにより沿川には被害が発生せず、安全度の向上に大きく貢献している。 また、水際部には植物が繁茂し、良好な河川空間を創出している。</p> <p>①主要目標 洪水被害の防止</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">指標</th> <th style="width: 35%;">事業着手時点数値等</th> <th style="width: 35%;">事後評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標流量に対する現況流下能力の割合</td> <td style="text-align: center;">0.53</td> <td style="text-align: center;">1.00</td> </tr> <tr> <td>浸水被害又は水防活動の実績 (浸水被害)</td> <td>S52、S58、H3、H12</td> <td style="text-align: center;">なし</td> </tr> <tr> <td>想定汜濫区域における災害発生時の影響</td> <td>国道140号、市道春日居中学校</td> <td style="text-align: center;">なし</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価 流下能力が向上したことにより、目標と同程度の降雨が発生した場合でも、沿川の被害は発生していない。</p> <p>②副次目標 なし</p> <p>③副次効果 なし</p> <p>④その他の事業効果の発現状況 なし</p>	指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等	目標流量に対する現況流下能力の割合	0.53	1.00	浸水被害又は水防活動の実績 (浸水被害)	S52、S58、H3、H12	なし	想定汜濫区域における災害発生時の影響	国道140号、市道春日居中学校	なし	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 10%;">項目</th> <th style="width: 20%;">着手時点</th> <th style="width: 20%;">事後評価時点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>総事業費</td> <td style="text-align: center;">1,231 百万円</td> <td style="text-align: center;">1,491 百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>工期</td> <td style="text-align: center;">H16年度～H26年度</td> <td style="text-align: center;">H16年度～H26年度</td> </tr> <tr> <td rowspan="6" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">経済効率性</td> <td>評価基準年</td> <td></td> <td style="text-align: center;">R 1</td> </tr> <tr> <td>費用</td> <td style="text-align: center;">未算出</td> <td style="text-align: center;">2,293 百万円</td> </tr> <tr> <td> 建設費</td> <td></td> <td style="text-align: center;">2,098 百万円</td> </tr> <tr> <td> 維持管理費</td> <td></td> <td style="text-align: center;">195 百万円</td> </tr> <tr> <td> </td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td style="text-align: center;">未算出</td> <td style="text-align: center;">7,754 百万円</td> </tr> <tr> <td> 一般資産被害</td> <td></td> <td style="text-align: center;">2,594 百万円</td> </tr> <tr> <td> 公共土木施設等被害</td> <td></td> <td style="text-align: center;">4,402 百万円</td> </tr> <tr> <td> その他※</td> <td></td> <td style="text-align: center;">758 百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">B/C</td> <td style="text-align: center;">未算出</td> <td style="text-align: center;">3.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>費用便益比 (B/C) は1.0を超えており、経済効率性は確保されている。 ※その他は、農作物被害便益、営業停止損失便益、応急対策費用便益</p> <p>(要因変化の分析) 総事業費 橋梁形式が斜橋となり、基礎杭や仮橋が必要になったことによる増加 護岸工事、取水堰工事に伴う残土処分先の変更に伴う増加</p>		項目	着手時点	事後評価時点		総事業費	1,231 百万円	1,491 百万円		工期	H16年度～H26年度	H16年度～H26年度	経済効率性	評価基準年		R 1	費用	未算出	2,293 百万円	建設費		2,098 百万円	維持管理費		195 百万円				便益	未算出	7,754 百万円	一般資産被害		2,594 百万円	公共土木施設等被害		4,402 百万円	その他※		758 百万円		B/C	未算出	3.4
指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等																																																							
目標流量に対する現況流下能力の割合	0.53	1.00																																																							
浸水被害又は水防活動の実績 (浸水被害)	S52、S58、H3、H12	なし																																																							
想定汜濫区域における災害発生時の影響	国道140号、市道春日居中学校	なし																																																							
	項目	着手時点	事後評価時点																																																						
	総事業費	1,231 百万円	1,491 百万円																																																						
	工期	H16年度～H26年度	H16年度～H26年度																																																						
経済効率性	評価基準年		R 1																																																						
	費用	未算出	2,293 百万円																																																						
	建設費		2,098 百万円																																																						
	維持管理費		195 百万円																																																						
	便益	未算出	7,754 百万円																																																						
一般資産被害		2,594 百万円																																																							
公共土木施設等被害		4,402 百万円																																																							
その他※		758 百万円																																																							
	B/C	未算出	3.4																																																						
	<p>(3) 事業実施による環境の変化</p> <p>①自然環境への影響 河床幅を広くしたことにより滞筋が形成され、水生生物に対して適度な水深が確保された。また、水際部には植生が繁茂し、魚類や鳥類の生息が確認できた。</p> <p>②生活・居住環境等への影響 なし</p> <p>③環境保全対策の効果発現状況 (措置を講じた場合) なし</p>																																																								
	<p>(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響</p> <p>①社会経済状況の変化 なし</p> <p>②関連計画・関連事業の状況の変化 なし</p> <p>③事業環境等の変化 なし</p>																																																								

評価シート(2)

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 〈有・無〉</p> <p>(理由) 事業完了後、浸水等被害も発生しておらず、危険度も改善され、十分な効果が得られており、目標は達成されていることから、今後の事後評価の必要性は無いと思われる。</p> <p><input type="checkbox"/> 「有」の場合の実施時期及び方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時期： 年度 ・ 方法： 	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈有・無〉</p> <p>(理由) 一定の工区を集中して事業展開することで、ほぼ計画通りに実施することができた。</p> <p>(具体的反映策) なし</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 〈有・無〉</p> <p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果) なし</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 〈有・無〉</p> <p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p> <hr/> <p>(9) その他特筆すべき事項 〈有・無〉</p> <p>地域の重要な交通インフラ（国道140号及び市道）や中学校を保全することが可能となった。</p>

3. 添付資料シート (1)

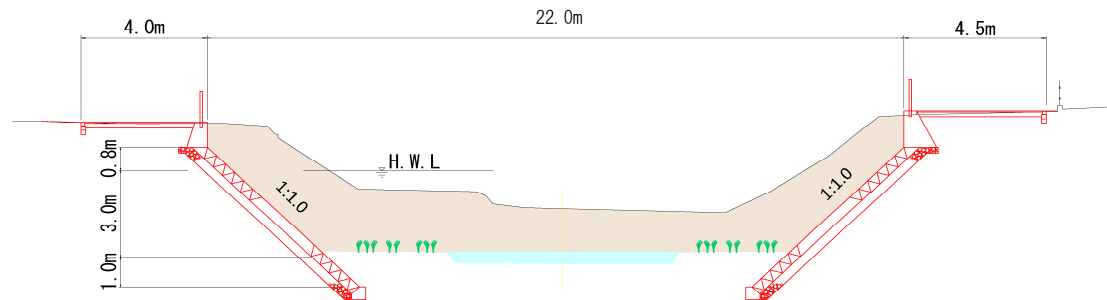


位置図



標準横断面図

標準断面図

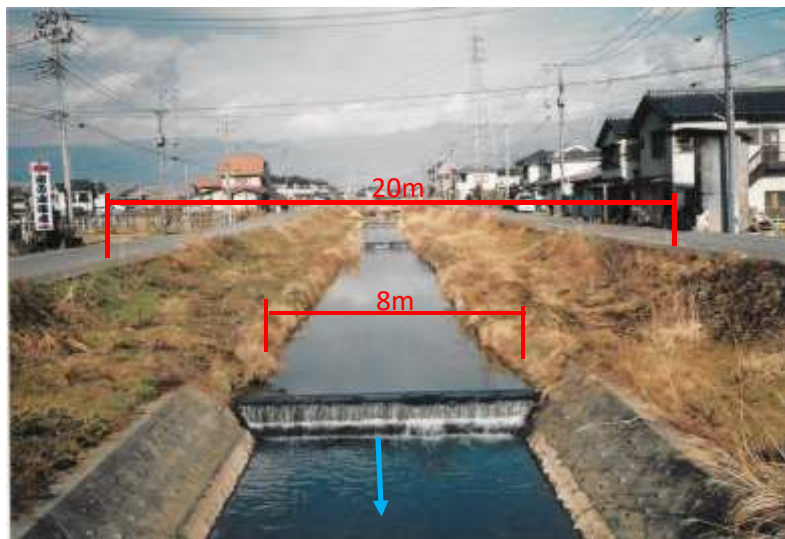


3. 添付資料シート (2)

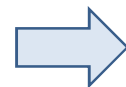
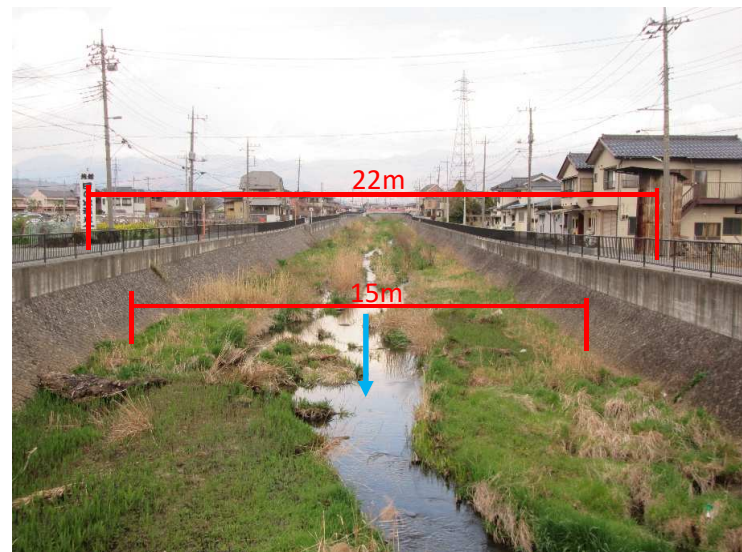
■ 事業着手前・完成後の写真

写真① 鍛冶屋橋上流部

改修前



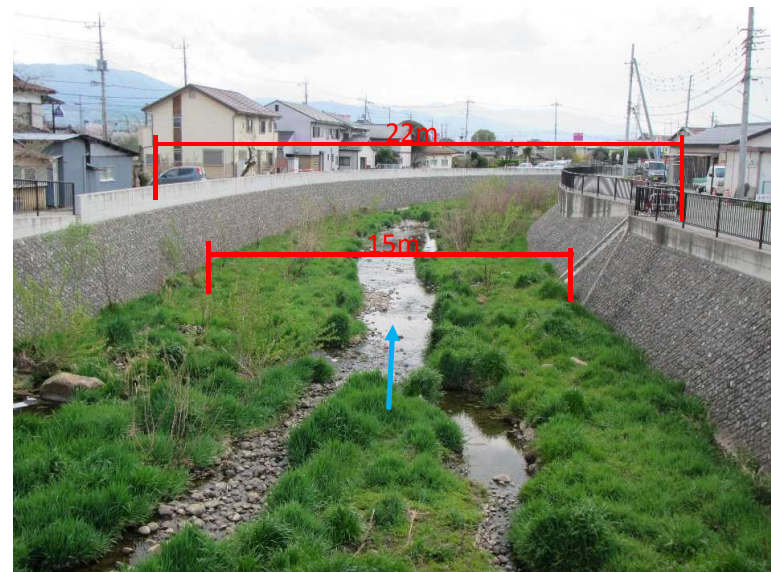
改修後



改修前



改修後

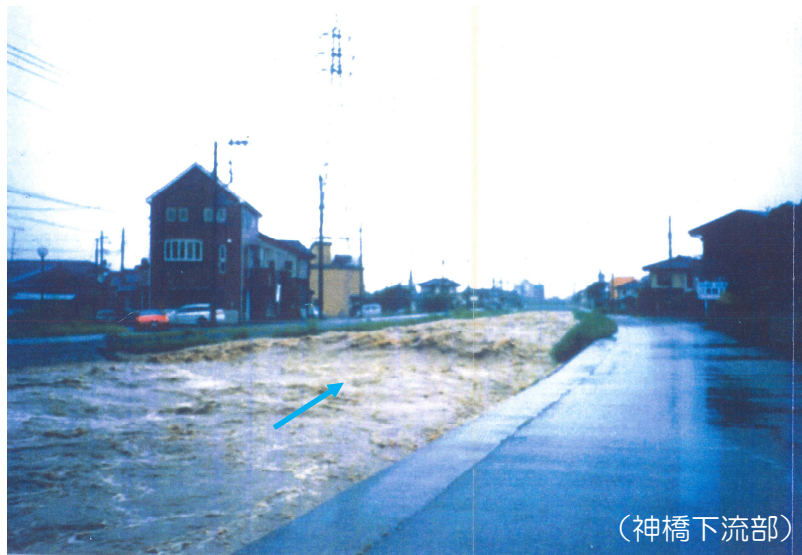


写真② 中蛙橋下流部

3. 添付資料シート (3)

■ 状況写真

整備前状況 (平成12年9月豪雨)



現況 (濤筋の形成状況)



現況 (濤筋の形成状況)



現況 (階段の設置状況)

